

～日本の家づくりを変える～  
**『第13回ジャープネット全国決起大会』開催**  
170社 400名が京都に一堂に会し、主宰より方針発表

全国の工務店ネットワーク「ジャープネット」(主宰:株式会社アキュラホーム代表取締役社長 宮沢俊哉、東京都新宿区)は、6月21日と22日の2日間にわたり、京都に於いて「日本の家づくりを変える 第13回ジャープネット全国決起大会」を開催しました。当大会ではジャープネット会員をはじめ、協力企業など総勢170社400名が参加し、主宰の宮沢から昨年度の実績報告と今年度方針が発表されたほか、大工職人の仕事始めに行う伝統儀式「鉦始め(ちょうなはじめ)」(※1)の披露、京都大学名誉教授 巽和夫氏による「長期優良住宅先導事業の成果と課題」をテーマとした特別講演、会員企業の実績・事例報告などが行われました。

■ ジャープネット昨年度の実績報告と今年度方針 ジャープネット主宰 宮沢俊哉

このたびアキュラホームの準耐火建築物における不適合につきまして、皆様にはご心配をおかけしお詫びいたします。住まい手の安心・安全を最優先に早期改修と再発防止に努めてまいります。



※第13回ジャープネット全国決起大会の様子

ジャープネットの昨年度の販売実績は7,567棟、発足14年目にして累計95,268棟となりました。新規募集は行わず、会員企業の底上げを重点に活動してきた結果、会員数は350社(昨年比▲50社)となりましたが、会員1社あたりの平均棟数は20.1棟(アキュラホームの実績は含まず)と、業界では受注20棟未満の工務店が急速に淘汰されるなか当ネットワークでは昨年(18棟)から大きく伸ばしています。

昨年は東北エリアの会員によって「ジャープネット東北連合」が組成され、福島県に100棟の応急仮設住宅の建築を行いました。また、震災後には顧客ニーズの高まる「災害に備える

暮らし」「安全安心な住まい」に対応した商品販売を会員各社が積極的に取り組んでいます。さらには、東京都が行う「東大和向原地区プロジェクト」の事業者としてアキュラホームとジャープネット会員5社が参画する「東京ビレッジ」が選定され、まちづくり事業においても事業提携を行っています。その他、昨年からのスタートした経営力強化支援事業「永代ビルダー塾」・「師範代制度」でも、活発な意見交換・勉強会を通して連携強化、永代続く優良ビルダーへの布石を敷いています。

今年度の基本方針は「日本最優良ビルダーネットワークを目指し」、4つの重点施策を掲げます。1つは「「安心安全」「環境配慮」による優良な住まいづくりの強化」。太陽光、空気の熱など自然エネルギーを活用しながら、革新(技術)と伝統(暮らしの知恵)が融合した住まいづくりを提案していきます。2つ目は「「永代家守り」「暮らし守り」の推進」。ビルダー(工務店)の強みは社会から必要とされる家守りができることであり、今後はお客様のライフステージに合わせた暮らし方の提案力が重要となってきます。3つ目は「連携による「ジャープネットブランド」の構築」。地域型住宅ブランド化事業への取り組みなど、地域毎での連携も積極的に図っていきます。4つ目は、「全社が「永代続く優良ビルダー」を目指す」ことです。変化への対応力・持久力をつけるためには20棟以上の安定受注、自己資本比率30%以上が求められます。これからの時代を一社で勝ち残ることは困難ですが、事業連携による「ブランド価値向上」を図り、会員全社で永代続く優良ビルダーとなれるよう邁進していきます。

<本件について報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社 アキュラホーム 広報課 堀越・若林 Email: horikosi@aqura.co.jp

住所: 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル34F TEL:03-6302-5010(直通) FAX:03-5909-5560

●写真データは右記よりダウンロードすることができます。 <http://www.aqura.co.jp/news.html>

## ■ ※1 鉦始め(ちょうなはじめ)



平安時代から大規模建築において番匠(宮中勤めの大工)儀式が行われており、「鉦始め(ちょうなはじめ)」はその儀式の1つとして現場の仕事始めと、一年の仕事始めに棟梁の家で行われていました。近年では殆ど観られなくなりましたが、昭和 56 年(1981)に「番匠保存会」※によって復元され、現在では毎年正月二日に京都広隆寺において一般公開されるようになりました。会場では古式の衣装を身に着けた番匠保存会の方々によって、切り出してきた木材に墨を付け、手斧と鉋で形を整える一連の作業を表す儀式を厳かに執り行いました。

※ 番匠保存会とは、「番匠儀式」などについて数多くの資料を蒐集し、後世に伝え残すために発足された

## ■ 京都大学名誉教授 巽 和夫氏の特別講演「長期優良住宅先導事業の成果と課題」

長期優良住宅先導事業は「いいものをつくって、きちんと手入れして、長く大切に使う」というストック社会における住宅のあり方について、具体的な内容を広く国民に提示し、技術の進展に資するとともに、普及啓発を図ろうとするものです。同事業の成果としては、事業者の意識向上と技術開発によるレベルアップが図れたほか、住宅産業におけるグループ化・ネットワーク化などの構造変化にも影響を与えました。さらに、住宅の長循環システムへの転換として、「住み切り」から数世代に区分された良好な状態で「住み継ぎ」を目指しています。これからの長期優良住宅は、性能・品質を向上させる先端技術を追求する「文明」を、気候や風土といったその地域の「文化」にうまく調和させていく成熟社会のハウジングを推進することが必要です。

巽 和夫氏 京都大学退官後、福山大学教授を務め、同名誉教授。  
都市住宅学会会長・長期優良住宅先導事業評価委員長などを歴任。

## ■ 第13回ジャープネット 全国決起大会 概要

名称 : ～日本の家づくりを変える～ 第13回 ジャープネット全国決起大会  
実施会場 : ウェスティン都ホテル京都  
対象者 : ジャープネット会員(ハウスメーカー、工務店、ビルダー)  
開催日 : 2012年6月21日(木)、22日(金)  
主催 : ジャープネット URL <http://www.jahbnet.jp/>

## ■ ジャープネット(JAHBnet)とは

地域ビルダー・工務店 350社による日本最大のホームビルダーネットワーク。お客様が末永く幸せに暮らせるよう、地域に密着した「家守り」を行い、永大続く優良ビルダーを目指している。94年にアキュラホームが開発した独自の住宅建設合理化ノウハウを体系化した「アキュラシステム」は、2,500社以上の全国の工務店に導入され、98年に(財)日本住宅・木材技術センター「木造住宅供給支援システム」に認定。その仕組みをもって工務店組織「アキュラネット」(現・ジャープネット)を設立。組織のスケールメリットを活用し、高品質・低価格の住宅を全国展開。ジャープネットの活動は、経済産業省「次世代省エネ住宅普及ビジネスモデル」の参考にもなった。1998年のジャープネット設立以来、累計販売棟数は95,000棟を超える。2010年「アキュラシステム」は、地域工務店の経営安定と持続的成長に貢献するものと高く評価されグッドデザイン賞を受賞。